

大腸癌肝転移に対する手術の妥当性 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2021年5月18日～2022年3月31日

〔研究課題〕 大腸癌多発肝転移に対する外科的切除の妥当性

〔研究目的〕

大腸癌肝転移症例に対しては外科的切除を含めた集学的治療によって、予後の向上が図られます。しかし、10個以上の多発肝転移症例ではスタンダードな治療戦略が確立されておらず、いまだに予後はよくありません。当院における大腸癌多発肝転移に対する切除症例に対し、大腸癌の予後規定因子の1つである肝転移の個数に着目し、個数別の長期予後について検討致します。

〔研究意義〕

多発する大腸癌肝転移に対し、外科的切除を選択された患者様データを収集し、解析することで、外科的手術の有効性を明らかにし、多発大腸癌肝転移の患者様の長期予後の改善に寄与できると考えられます。

〔対象・研究方法〕

2010年4月から2021年3月に当院で施行した大腸癌肝転移切除症例の初回肝切除119例において、3群(A群:1-4個、B群:5-9個、C群:10個以上)に分類し、長期生存期間、無再発生存期間について統計学的手法を用いて比較致します。また、再発個数・再発期間を調べ、治療成績との関係性を調べます。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

本研究で患者様のデータを取り扱う際は、個人情報保護に十分配慮します。研究の成果を公表する場合は、患者様を特定できる情報を含まないようにし、本研究の以外の目的で患者様のデータを使用することはありません。10年保管後に破棄します。本学患者様がデータ使用拒否を申し出た場合、情報は速やかに削除します。

〔その他〕

本研究は後ろ向きの観察研究であり、患者様に費用負担および健康被害は生じません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部外科学講座 佐野圭二 教授

研究分担者: 帝京大学医学部外科学講座 三澤健之 教授

帝京大学医学部附属病院 近藤 里江 シニアレジデント

住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 7631]